

漁船活用型音響調査マニュアルの作成

漁業生産工学部

研究の背景・目的

近年、水産資源の管理において、生態系基準の資源管理(EBM)という話をよく聞きます。国際機関である南極海洋生物保存委員会 CCAMLR(図 1)においても、この EBM の考え方が取り入れられ始めました。ナンキョクオキアミ(図 2)は、南極海の生態系において、魚類、鯨類、アザラシ類、ペンギンを含む海鳥類など、あらゆる生物の「餌」として重要な位置にあります。一方で、食用、釣り餌、養殖の餌、近年では健康医療成分として油脂(クリルオイル)抽出用途など、漁獲対象種としても重要です。CCAMLR では EBM の視点から、ナンキョクオキアミの資源評価、資源管理を推進しており、南極海で操業するナンキョクオキアミ漁船を活用した、音響資源調査の可能性を模索しています。

研究成果

CCAMLR の音響調査専門部会(SG-ASAM)に出席し、関連諸国と漁船活用型音響調査について議論しています。直近では、2015年3月に韓国の釜山で開催された SG-ASAM15 に参加し、漁船活用型音響調査マニュアルを作成し、同年の CCAMLR 科学委員会へ提出しました。

波及効果

公海における資源保護・管理のために、遠洋漁業では、地域漁業管理機関(RMFO)に加盟し、国際ルールに従った操業を行うことが重要です。また、漁業当事国による適切な資源管理努力も求められます。各 RMFO は CCAMLR の動向に影響されること、遠洋における調査努力を確保するという観点から、今後、「漁船活用型音響調査」という考え方は、世界中に広がっていくことが予想されます。

(本研究は、水産庁事業「国際資源評価事業(委託)」により実施しました。)

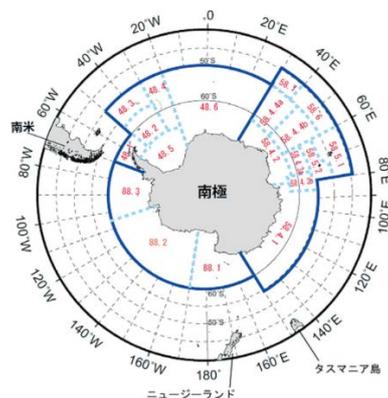


図 1 CCAMLR の管理区域(青枠内)



図 2 ナンキョクオキアミ

(水産情報工学グループ:安部幸樹)